



平成 28 年 12 月 1 日

松山河川国道事務所

まつやまそとかんじょう

松山外環状道路インター線

○平成28年12月10日(土曜日)16時に全線開通します。

○当日、開通式典およびセレモニーを開催します。

◆開通について

松山河川国道事務所・愛媛県・松山市が協同で整備を進めている松山外環状道路インター線のうち、古川IC^{ふるかわ}～市坪IC^{いちつぼ}間（延長 1.8km）の自動車専用道路部が開通し、以下のとおり一般車両の通行を開始します。今回の開通で国道 33 号～56 号の間が自動車専用道路でつながります。

1. 開通日時 平成 28 年 12 月 10 日（土曜日）16 時から
2. 開通区間 自：古川IC^{ふるかわ}（愛媛県松山市井門町^{えひめけんまつやまし いどまち}）
至：市坪IC^{いちつぼ}（愛媛県松山市市坪南3丁目^{えひめけんまつやまし いちつぼみなみ}）
3. 開通区間 1.8km（全体延長 4.8km、開通済み区間 3.0km）

◆開通式典およびセレモニーについて

1. 日 時 平成 28 年 12 月 10 日（土曜日）開通式典：10 時 00 分～10 時 40 分
2. 場 所 愛媛県トラック協会 2 階（松山市井門町^{まつやまし いどまち}1081 番地 1）

※セレモニーは、開通式典終了後（11 時 00 分開始予定）、松山外環状道路インター線市坪IC^{いちつぼ}付近（松山市古川^{まつやまし ふるかわ}）で行います。

※開通式典、セレモニーとも、報道関係の方の取材・撮影は自由に行えます。

※一般の方はセレモニーの見学は自由に行えますが、開通式典には参加できません。

なお、セレモニー会場に駐車場はございませんので、自動車での来場はできません。

※事業の概要は別紙 1 を、開通式典等の概要は別紙 2～4 をご参照ください。

本施策は、四国圏広域地方計画「N0.5 地域の自立的・持続的発展に向けた「資国」産業競争力強化プロジェクト」の取り組みに該当します。

問い合わせ先（○：主な問い合わせ先）

国土交通省 四国地方整備局 松山河川国道事務所 電話 089-972-0034（代表）

○総務課長 松田 俊紀（マツダ トシノリ）（内線：211）【開通式典に関すること】

○副所長（道路） 庄野 達也（ショウノ タツヤ）（内線：205）【事業に関すること】

松山外環状道路インター線 全線開通式典の概要

1. 日 時 平成28年12月10日（土曜日） 10時00分～
2. 開通区間 松山外環状道路インター線（古川IC～市坪IC） 延長1.8km
3. 場 所 開通式典：愛媛県トラック協会 2階（松山市井門町1081番地1）
セレモニー：松山外環状道路インター線 市坪IC付近（松山市古川）
4. 主 催 愛媛県、松山市、松山河川国道事務所

◆開通式典（10時00分～10時40分）

=== <セレモニー会場へ移動> ===

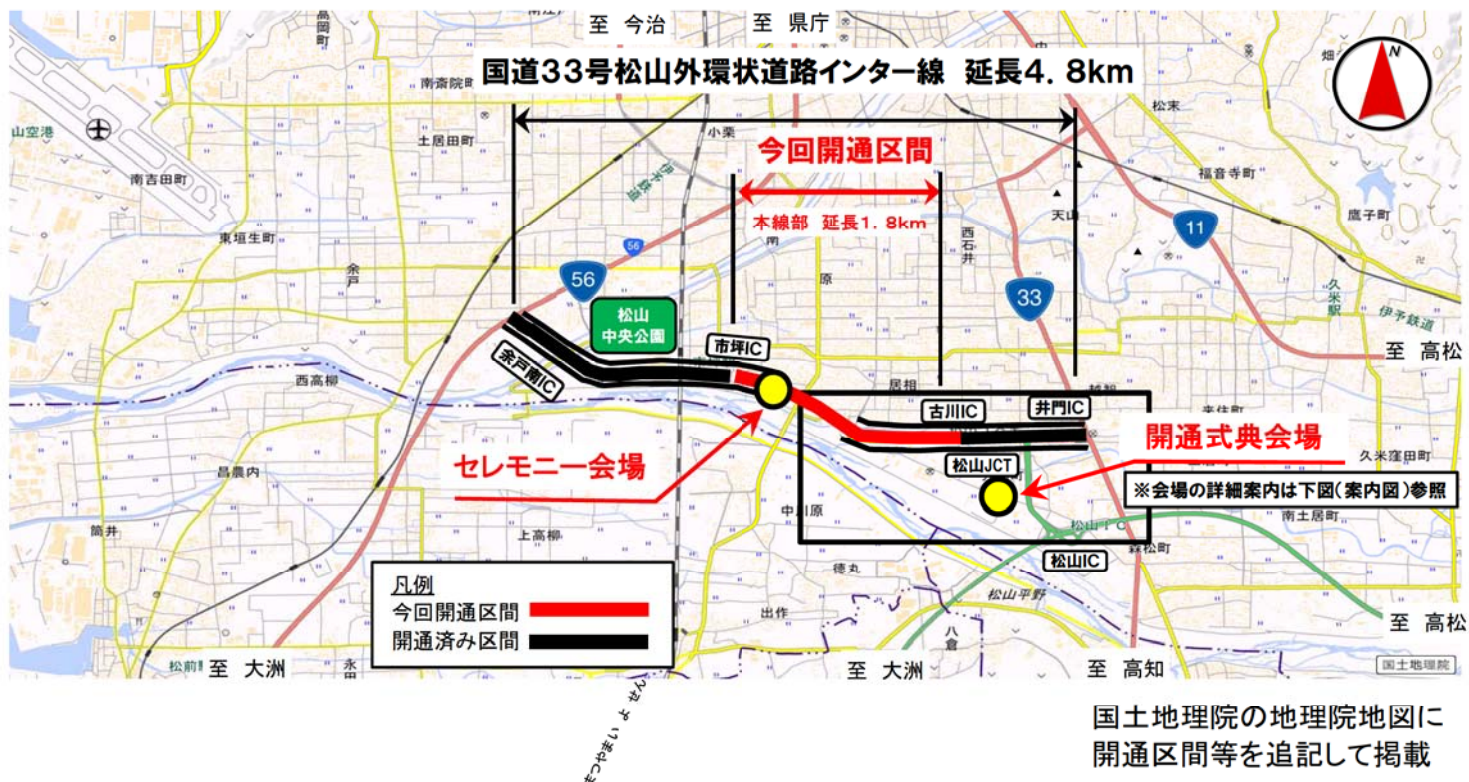
◆セレモニー（11時00分～11時40分）

- ・ 日招太鼓等による出迎え
- ・ 地元中学校吹奏楽部によるブラスバンド演奏
- ・ テープカット、くす玉開披
- ・ 開通記念パレード

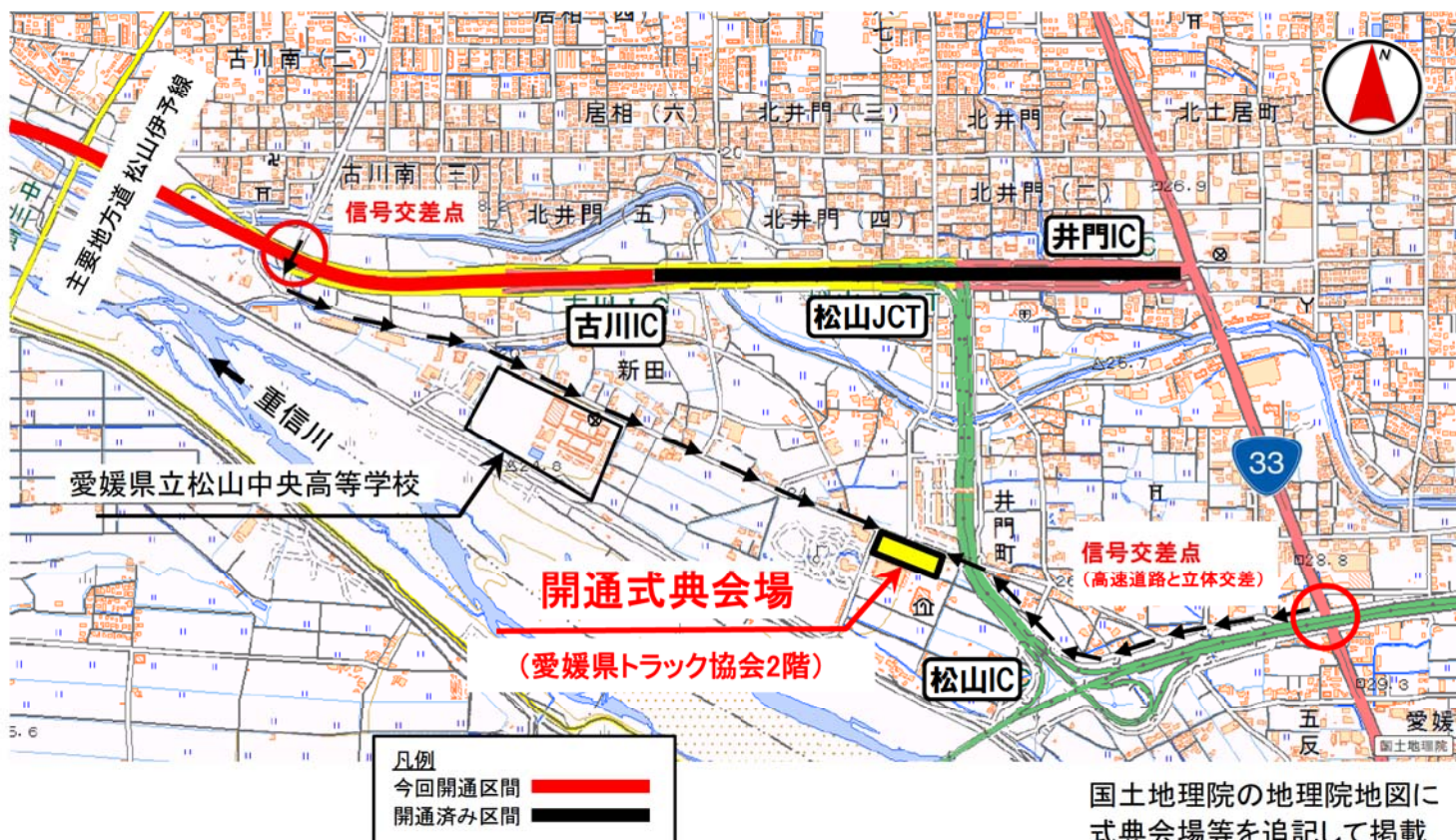
※式典終了後、セレモニーを開始しますが、セレモニー開始時間は多少前後する場合があります。また、天候によりセレモニーの内容が変更となる場合があります。

5. 一般車両通行開始 16時00分

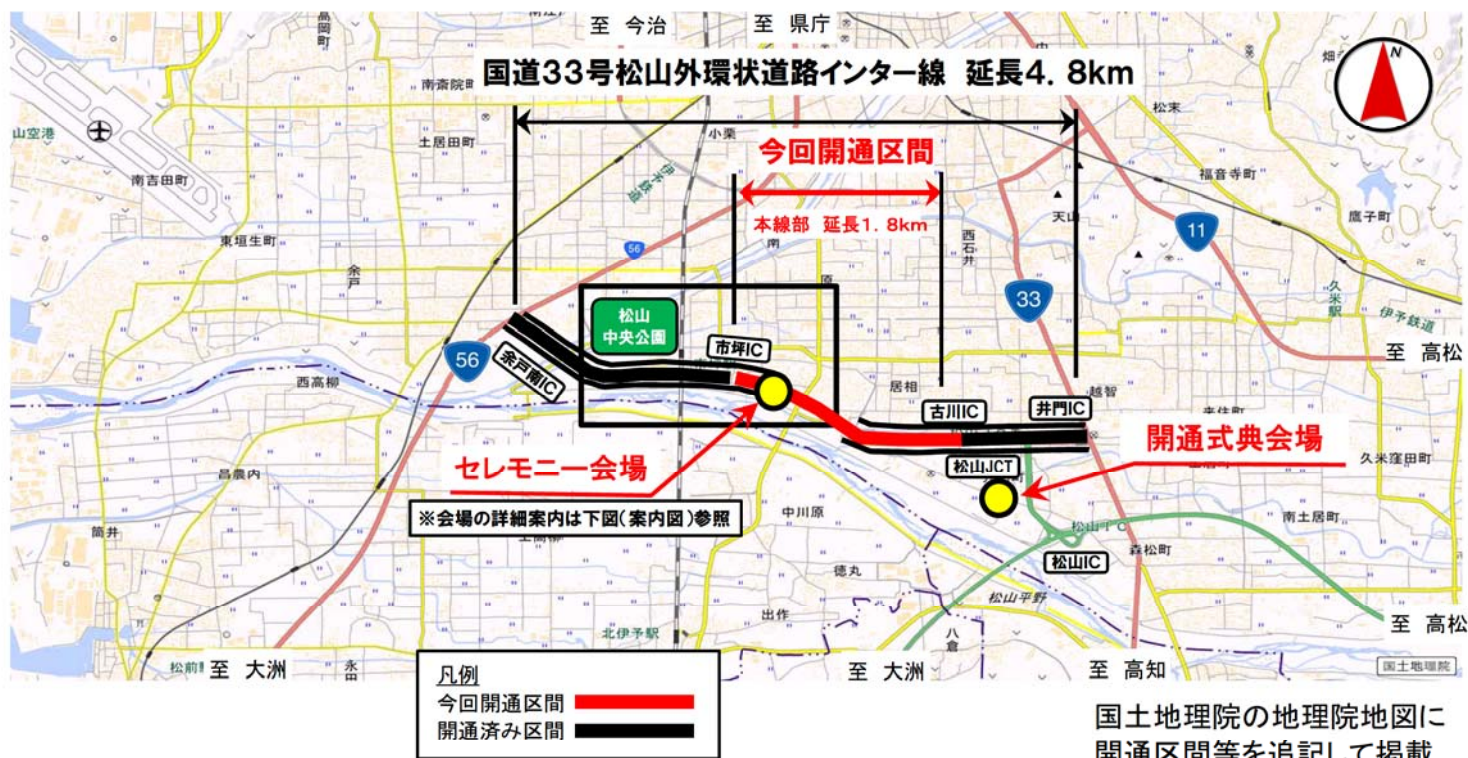
松山外環状道路インター線 全線開通式典会場 位置図



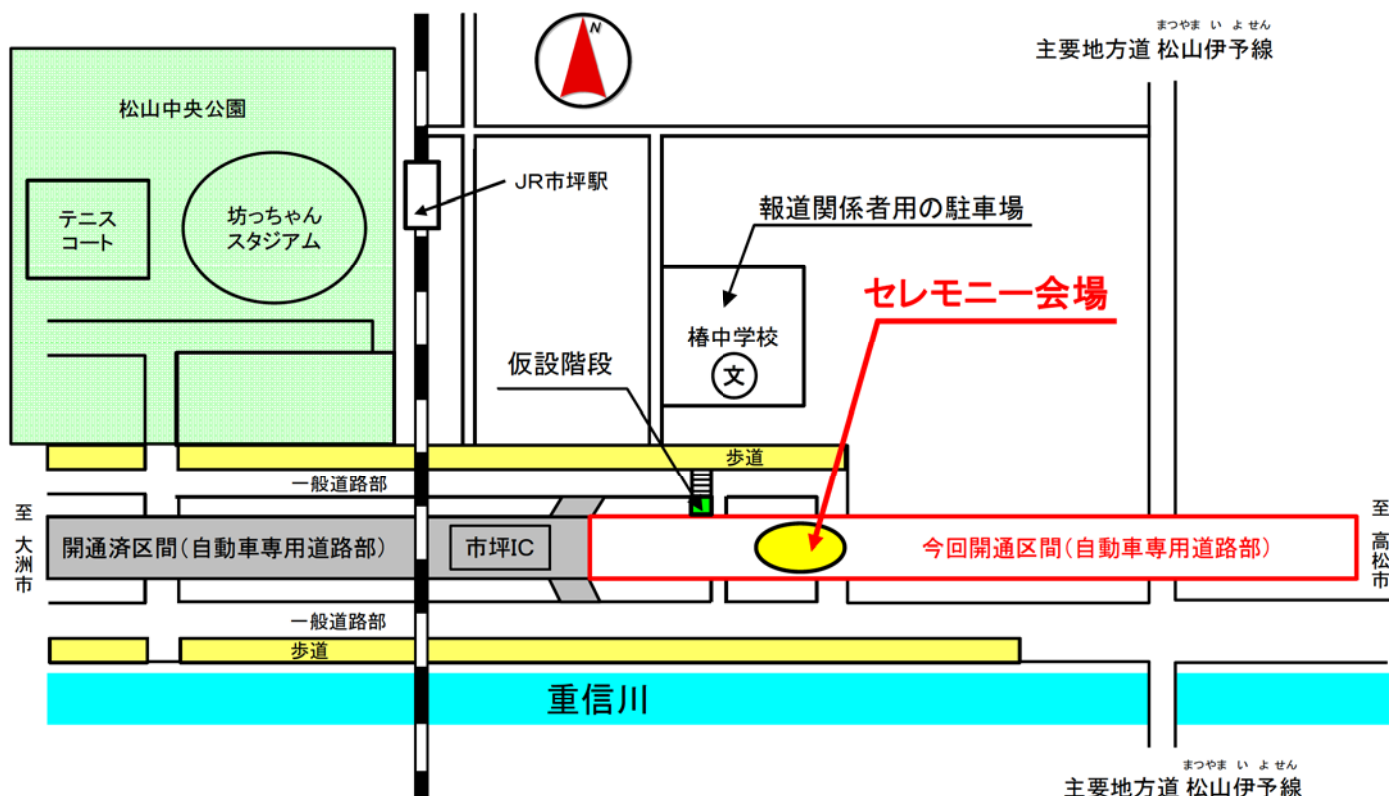
松山外環状道路インター線 全線開通式典会場 案内図(上図口囲み拡大図)



松山外環状道路インター線 セレモニー会場 位置図



松山外環状道路インター線 セレモニー会場 案内図(上図□囲み拡大図)



※報道関係の方の取材・撮影は自由に行えますが、駐車場の確保関係等から事前登録をお願いします。
 ※報道関係者の駐車場は、椿中学校を予定しています。
 ※一般の方の駐車場は用意しておりませんので、自動車での来場はお控え下さい。

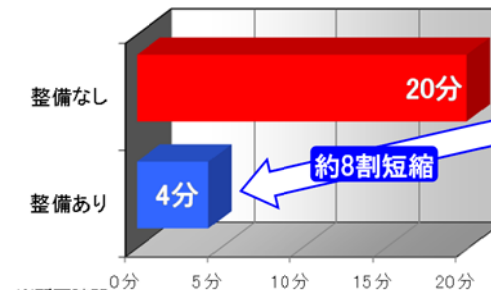
整備効果① 松山市西部、松前町方面から松山ICへの利便性向上

- 今回の開通により、主要幹線道路である国道56号から松山IC及び国道33号までを繋ぐ新たなルートが形成され、**国道56号から松山IC間の所要時間が約8割短縮**されるなど、**松山市西部、松前町方面から高速道路への利便性が向上**します。
- また、交通の分散により、「**主要渋滞箇所**」である**天山交差点**等の更なる**渋滞軽減**が期待されます。

新しいルートの形成

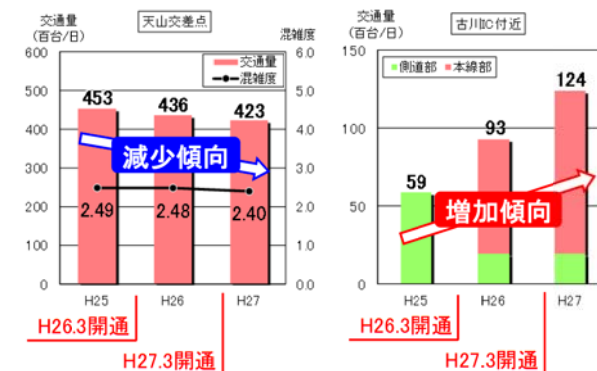


■ 所要時間の短縮 (国道56号～松山IC)



※所要時間：「整備なし」：平成26年10月21日の調査結果による実測値（7:00～19:00間での最大所要時間）（ルートは幹線道路を利用した一般的なルート）
「整備あり」：自動車専用道路区間を[時速60km]と仮定して算出、それ以外の区間はH22道路交通センサス混雑時旅行速度を基に算出

■ 周辺道路の交通分散の変化 ＜国道33号＞ ＜松山外環状インター線＞

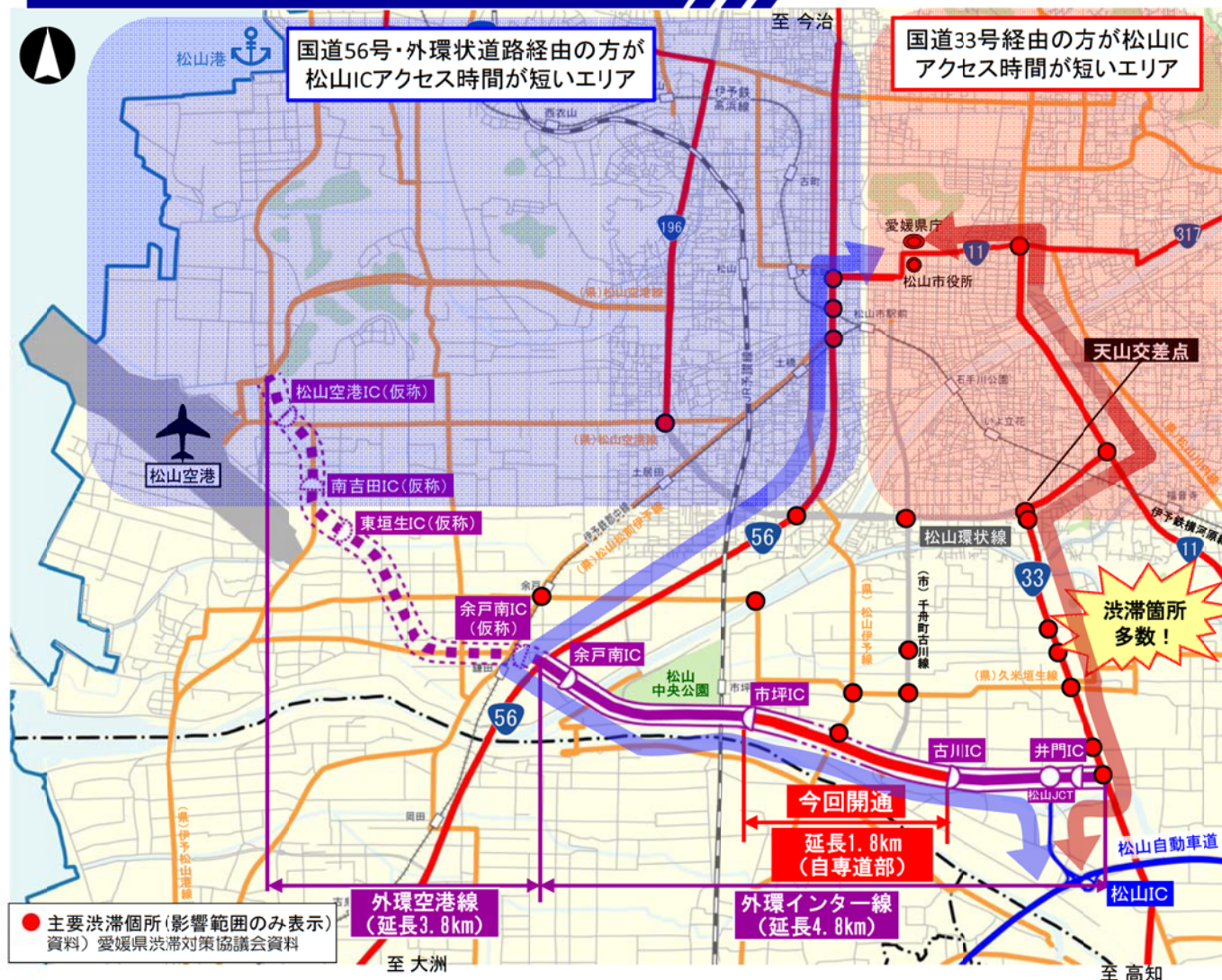


資料：交通量調査結果（H25.11、H26.10、H27.10）
※混雑度はH22道路交通センサスの交通容量を用いて算出

参考① 松山市中心部から松山ICへの定時性向上や市内流入交通の削減

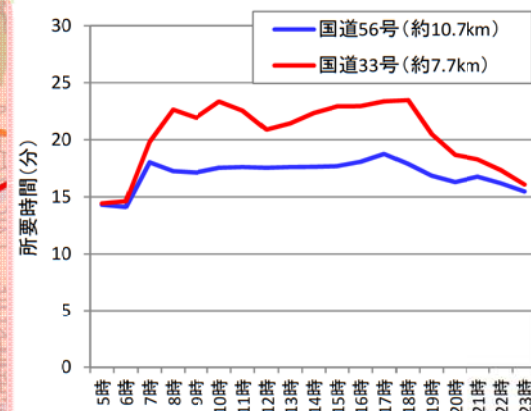
- 松山中心部からは主要渋滞箇所が連なる国道11号・国道33号を経由し、松山ICへアクセスしているため、特にゴールデンウィークなどでは定時性が低い。
- 今回の開通により、松山市中心部から松山ICへは、国道56号の経路が新たに構築され、交通の分散による利便性向上、市内流入交通の削減が期待されます。

新しいルートの形成



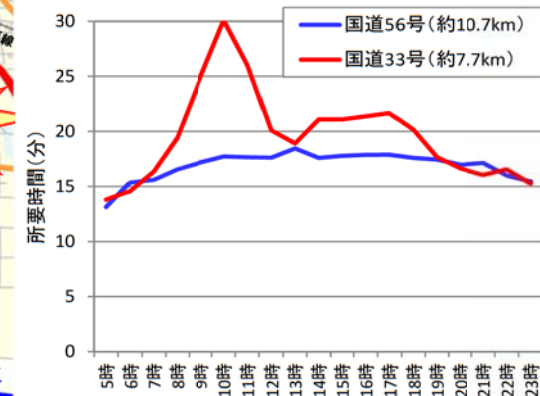
所要時間の比較(H27.4~H27.8平日)

・県庁⇒松山IC



所要時間の比較(H28GW)

・県庁⇒松山IC



資料: 民間プローブデータ(H28GW(4/29~5/8の土日祝)、H27.4~H27.8平日)
松山外環状道路は外環インター線が全通している条件で算出(V=60km/h)

参考② 外環全線開通により期待される効果 –物流ネットワークの強化–

- 松山港は、四国最大のコンテナ貨物取扱港湾であり、愛媛県東部地域へパルプや金属機械工業品等が搬送されています。
- 松山港と松山ICへのアクセス道路である松山外環状道路の整備により、**輸送時間が短縮され、海上コンテナ物流の効率化**が図られます。

港湾からのアクセス道路の整備



■松山港への物流効率化



開通後の輸送時間換算で**年間約490台分の海上コンテナ物流(34,080分÷70分(※1))が効率化**

松山港から愛媛県東部地域行きの輸入コンテナ量を台数換算(※2)すると約142(台/月)であり、年間34,080分(142台/月×12ヶ月×20分)の輸送時間が短縮

※1: 輸送時間については、輸入コンテナ量が最も多い新居浜市の工業地帯までの所要時間で算出。

※2: 40フレートトンのコンテナ1個を大型車1台で運搬する際の車両台数: 5,700
フレートトン/40フレートトン=142台
フレートトン: 重量または容積で計算された数量で、いずれかの大きい方で計算
重量1,000kg、容積1,113m³(40立方フィート)=1フレートトン

■地元の声(平成28年5月)

- ・物流の拠点である高速ICや空港、港湾などがつながる松山外環状道路が整備されれば、移動時間が短縮され、早く確実な集配が可能になります。
- ・さらに、国道などの渋滞緩和にも効果が見込まれますので、輸送効率が上がり、大きな経済効果が期待できます。



＜トラック運送関係者＞